

1997年度日本気象学会奨励金受領者選定理由

受領者：山下龍平（網走地方気象台，現所属：旭川地方気象台）

研究題目：網走地方における海陸風について

選定理由：山下会員は，昭和53年に帯広測候所に就職した後，北海道内の測候所，地方気象台，管区気象台で，現業勤務のかたわら地方に特有な現象の研究に意欲的に取り組んできた。その成果は札幌管区気象研究会を中心に数多く発表されている。

例えば冬型季節風時の紋別地方の天気分布を風向別に調べた研究では，地形の影響で降水量や晴と雪の天気分布に地域差が現れることを示した。局地的な大雪の事例解析では，石狩平野を通過した帯状雲の中で，ライフサイクルの短いメソ低気圧が発生したことを示し，このメソ擾乱の周りの循環と降水強化の関係を考察した。

また山下会員は，網走付近の夏季の海陸風について，高風丸の高層データとアメダスの気温・風データを用いて海陸風の鉛直構造や時間変動を解析し，朝には200 mの海風の厚さが15時には約800 mの厚さまで達すること，海風が約50 km内陸まで進入すること，等の興味深い成果を得ている。さらに海陸風の卓越と気圧傾度力の関係についても調査を進めている。こうした研究成果は，天気予報作業にも取り入れられ予報精度向上に貢献している。

今後は，北海道に暴風雪をもたらした低気圧の構造の解析や，局地性の強い降雨の事例などメソスケール現象の解明を進めると共に，量的予報の精度向上に繋がる調査の蓄積をめざしている。山下会員は，今後も気象災害の軽減や天気予報の精度向上を目的とした調査研究を通して，気象学および気象業務の発展に寄与することが期待されるので，本学会はここに奨励金を贈るものである。

受領者：花宮廣務（大分地方気象台）

研究題目：台風災害の調査及び瞬発性強風の解析

選定理由：花宮会員は，昭和42年に大分地方気象台空港分室に就職した後，空港出張所，測候所，地方気象台，管区気象台などの職場で，航空気象，地上気象観測，高層気象観測，レーダー観測，防災など様々な業務を遂行するかたわら，幅広い経験と知識を生かした調査と研究に精力的に取り組み，成果を論文などにまとめている。

同委員が精力的に調査・研究に取り組んだ最近の気象災害は，台風9119号と9313号による災害や，1996年に大分県下で発生したダウンバーストによるものである。この中で台風による風倒木被害を受けた地域では，その直後には台風前より少ない雨で土砂災害が発生することなどを明らかにしている。これらの研究は，現場での防災対策や防災啓蒙に大きく寄与する貴重なものである。また，日本に生息しない昆虫が台風通過直後に採集される事例の調査を行って，農業害虫等昆虫の移動と気象との関わりについて明らかにしたユニークな研究もあり，農林水産省の関係者の関心を集めている。

日頃から気象知識の研鑽に努めていることでも模範的な同会員は，本務である気象業務遂行のかたわら，以上のような気象現象の調査・研究ならびに気象災害の防止・軽減を目標とした研究を続け，しかも，若い人を積極的に共同研究者として参加させるなど，後進の指導育成を常に心がけていることも大いに評価することができる。

花宮会員の，気象災害の軽減など気象学の応用面や気象業務の発展のための活躍が，今後も期待されるので，本学会はここに奨励金を贈るものである。